

続・ふるさと

こぼれ話

免の内台遺跡の鉄製農具

第46回

生涯学習課総合情報館推進係
☎028 (677) 2525

免の内台遺跡は、約20ヘクタールにわたって広がる大規模な遺跡である。また、縄文時代から奈良・平安時代に至るまでの長い年月にわたる遺跡で、芳賀町を代表する遺跡の一つである。

この遺跡の古墳時代の住居跡から鉄製鍬先、鉄鎌、刀子(小刀)などの鉄製農具が出土している。これらは、従来の農具を改良した古墳時代後期に特徴的なものである。およそ1,400年前の古墳時代後期には、中小河川によって作られた低地や山間部までもが開発の対象となったが、その背景は鉄製農具の普及や改良によるところが大きい

とされている。ところで、鉄製の農具が遺跡から出土する数は、極めて少ない。理由は、鉄は地中に埋もれるときびと土に返ってしまうことや、貴重品であったため何度でも作り直して利用され、最後にはほとんどすり減ってしまうことが考えられる。免の内台遺跡のように、鉄製農具が集落内の住居跡から出土する例も珍しい。鉄製農具の場合、古墳からの出土が大半を占めている。これは、この時代、鉄製農具が支配者によって独占されていたこと



▲免の内台遺跡から出土した鉄製農具

を意味し、一般農民への普及は次の奈良時代以降であった。それが免の内台遺跡では、古墳時代後期の住居跡から鉄製農具が出土した。免の内台遺跡に住んでいたのは、一般農民である。これらの鉄製農具は、古墳時代後期に一般農民が使用していたという点で、大変貴重であるとともに、古墳時代の芳賀の農民の進歩的な姿を伝える物でもある。

編集後記

□あけましておめでとうございます。今年のお正月はいかがお過ごしでしょうか。

□今年「ねずみ年」です。私にとつてねずみはなんとも不思議な存在です。忌み嫌う人が多い反面、ベットとしても飼われ、ミッキーマウスやトムとジェリー、最近ではレミーのおいしいレストランにも登場し、人々からとても親しまれています。

□ねずみは働き者で、たくさんお金を運んでくるという意味があり、また、子孫繁栄の象徴にもされるたいへん縁起のよい動物のようです。我々に多くの幸運をもたらしてくれることを望みたいですね。

(ヒナ)



L=39cm
fulica atra
(黒いススの水鳥)

冬期に湖沼でカモの観察をしていると、頻繁に潜水したり、陸に上りさかんに人に餌をねだっているが、カモの仲間ではない。クイナの仲間が一番大きく、冬鳥として本町に飛来する。

丸い身体全体が黒ずんで、くちばしから鼻の頭の部分にかけて乳白色であるが、幼鳥は肌色からピンク色である。近似種のバンは夏鳥でやや小さく、身体の色は同じく全体が黒ずんでいるが、くちばしの半分の付け根から鼻の頭の部分にかけて赤く、その先が黄色なのと翼の一部にあまり目立たない白い模様が入っていることで識別する。

バンやカイツブリ類はカモ類と湖沼などで一緒に行動しているので同類と思われるが、進化上は後発的で脚の指が長く弁状になり、各指が水掻きの役目をしているのがカモ類と異なるところである。

■編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028 (677) 6032 ☒kouhou@town.haga.tochigi.jp
■発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
■芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
④芳賀町の携帯サイトはコチラから➡

